## 体験型海外教育実地研究　第２学年　異文化理解

### 「Let’s make a decoration of the Halloween with origami！」

教育学研究科　科学文化教育学専攻　社会認識教育学専修　　若　原　崇　史

### １　はじめに

私が体験型海外実地研究に参加しようと思ったのは，ここでしかできない貴重な体験ができると考えたからである。時間とお金さえあればアメリカに旅行に行くことはできるが，授業をすることは簡単にできるようなことではない。しかし，体験型海外教育実地研究ではそれができる。そして，それはきっと自分が成長するチャンスである。ネイティブ相手に英語を話すチャンスでもあるし，海外の教育事情に触れるチャンスでもある。これを逃す手はないと考え，参加を決意した。

### ２　実地研究の日程と概要

| 月日 | 曜 | 交通等 | 訪問地・用務等 | 宿泊地 |
|---|---|---|---|---|
| 4/24 | 水 | 渡航までの日程，パスポート，ESTA，授業研究テーマ事例，　部屋割り | | |
| 5/15 | 水 | 授業研究テーマ案の交流・テーマの設定 | | |
| 6/ 6 | 木 | 学習指導案の検討 | | |
| 6/11 | 火 | 学習指導案の検討 | | |
| 6/24 | 月 | 学習指導案(英語版)の検討 | | |
| 7/ 1 | 月 | 学習指導案(英語版)の検討 | | |
| 7/ 6 | 土 | 第９回学校間交流国際フォーラム | | |
| 7/ 7 | 日 | ワークショップ：学習指導案および教材・教具の検討 | | |
| 7/22 | 月 | 保険説明（学習指導案の検討，指導案の提出について） | | |
| 7/23 | 火 | 保険説明（学習指導案の検討，指導案の提出について） | | |
| 8/26 | 月 | 準備状況確認，報告書・教材集・発表会について，渡航準備・関係書類提出 | | |
| 9/ 9 | 月 | 最終事前打ち合わせ（準備状況，準備物・集合時刻等の確認） | | |
| 9/14 | 土 | 広島―成田 0755-0935 (NH-3236)<br>成田―ワシントン　ダラス 1105-1040 (NH-2)<br>ワシントン　ダラス―ローリー 1220-1329　(UA-4880)<br>空港 －（ウォーレン先生・ECU バス）→City Hotel & Bistro | | アメリカ・ノースカロライナ州<br>City Hotel & Bistro<br>203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC 27834<br>TEL(877)2712616<br>Greenville |
| 9/15 | 日 | （ウォーレン先生・バス） | ミーティング，ホテルにて教材作り<br>各学校の先生方と事前打ち合わせ<br>レセプションパーティ | Greenville　同上 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 9/16 | 月 | City Hotel<br>→Elmhurst 小学校へ<br>（ウォーレン先生・バス） | 学校訪問（Elmhurst 小学校）<br>校内見学<br>授業見学<br>担任の先生との打ち合わせ<br>ティーチャーズショップ訪問<br>ECU 訪問<br>構内（ショップ・図書館）見学<br>夕食（ECU ダイニングホール） | Greenville　同上 |
| 9/17 | 火 | City Hotel<br>→Elmhurst 小学校へ<br>（ウォーレン先生・バス） | 学校訪問（Elmhurst 小学校へ）<br>校内見学<br>授業実践（若原）<br>授業見学（吉川）<br>夕食会（ECU フットボール場） | Greenville　同上 |
| 9/18 | 水 | City　Hotel → ECU<br>（ウォーレン先生・ECU バス）<br><br>ECU → ローリー<br>（ECU バス） | 午前　ECU の講義に参加<br><br>午後　ローリーへ移動<br>自然史博物館見学<br>ローリー市内観光 | ノースカロライナ州<br>Clarion Hotel<br>State Capital<br>320 Hillsborough Street Raleigh, NC 27603<br>TEL(919)8320501<br>Raleigh |
| 9/19 | 木 | 徒歩で，Exploris M.S.へ | 学校訪問(Exploris M.S.)<br><br>午後　ローリー市内見学<br>歴史博物館見学 | Raleigh（同上） |
| 9/20 | 金 | ローリー—ワシントン　ダラス<br>1021-1134<br>(UA-4887)<br>（空港－ホテル間はタクシー） | ワシントンへ移動<br>アメリカ文化体験 | Washington Plaza<br>10 Thomas Circle, Northwest, Washington,DC 20005-4176<br>TEL (202)8421300<br>Washington, DC |
| 9/21 | 土 | 徒歩 | アメリカ文化体験・Book　Fair<br>スミソニアン博物館見学 | Washington DC(同上) |
| 9/22<br>9/23 | 日<br>月 | ワシントンダラス—成田 1220-1525 (NH-1)<br>成田—広島 1740-1915 (NH-3237) | | |

## ３　実地研究授業

### 3.1　単元名　第２学年　異文化理解

「Let’s make a decoration of the Halloween with origami！」

### 3.2　事前準備

①　単元設定の理由

私がアメリカの子どもたちに望んだのは日本に興味を持ってほしいということだった。そこで海外でも知名度が上がりつつあるという折り紙を取り上げることを考えた。また，一時的な興味で終わらないよう，折り紙は行事の飾りつけにも使えるのだということを伝えたいと思った。そこで，日程的にはまだ少し早かったのだが，ハロウィーンの飾りを作ろうと考えた。

②　準備したこと

まず，折り紙に興味を持ってもらうための工夫を考えた。折り紙でアルファベットを折ることができることを知り，これを用いて自己紹介することとした。また，海外の人にとって折り紙は非常に難しいということを聞いたことがあったため，難しさを和らげる方法を考える必要があった。そこで，初めてでも折れるよう大きめの折り紙と手順を書いたマニュアルを用意した。

### 3.3　学習指導案

Lesson Title：Let’s make a decoration of the Halloween with origami!

Lesson Author：Takashi Wakahara

Date：　September　17th，2013

Grade Level：2th　grade

Subject　：　Culture

Description　：　In this class, students will learn about origami. They will experience a Japanese traditional play through making a decoration of the Halloween with origami.

Objectives：As a result of this activity, it will be possible for children to

1　Understand origami, which is a Japanese traditional play.

2　Enjoy Halloween with a wish, and make an original Jack-O’-Lantern.

Teaching process：

| Activity | Instruction of teacher | Materials |
|---|---|---|
| 1. Know about the teacher. | 1. Introduce teacher’s name with the alphabet that the teacher made with origami. | Origami(alphabet) |

| | | |
|---|---|---|
| 2. Learn about origami. | 2. Explain that origami is a Japanese traditional play, and Japanese people decorate their events with origami. | Origami(Samurai hat in the boys festival, hina doll in Hina Matsuri) |
| 3. Make a Halloween decoration. | 3. Tell that Halloween is coming. Using a big origami, show how to fold Jack-O'-Lantern, and let them make an original Jack-O'-Lantern. | The manual showing how to fold Jack-O'-Lantern, Big origami for demonstration, Jack-O'-Lantern that the teacher made |
| 4. Draw the face on their original Jack-O'-Lantern. | 4. Show teacher's Jack-O'-Lantern, and let students draw a face on their Jack-O'-Lantern. | Pen |
| 5. Introduce the design to other classmate. | 5. Let students introduce their original Jack-O'-Lantern. | |

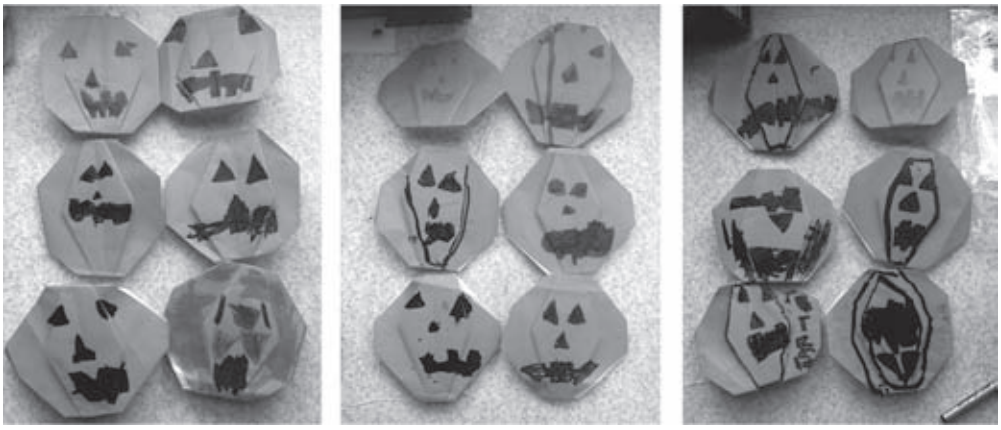
### 3.4　授業の実際

(1)自己紹介を折り紙で作ったアルファベットを用いて行った。最初何が示されているかわからない様子だったが，途中でアルファベットと気づいたようだった。
(2)日本人は折り紙を用いて様々なものが作れることを説明した。例として，折鶴，兜，雛人形，しおりを見せた。その後，日本人は折り紙を使って年中行事を飾ることがあると伝えた。
(3)ハロウィーンが近づいているので，ジャックオーランタンを作るという活動を伝えた。子どもたちの反応は予想していたより薄かった。
(4)折り方が書かれた説明書と通常より少し大きめの折り紙（25 センチ四方）を配布した。
(5)担任の先生の助言もあり，1 つずつ手順を全員で進めていくこととした。前で実際に折って見せ，その後子どもたちに折ってもらった。
(6)途中何ヶ所か折るのが難しい手順があったため，教室を回りながら折り方の指導を行った。その際，担任の先生や小原先生にも，指導を手伝っていただいた。
(7)全ての手順を折り終えるまでに予定していた 40 分を越えてしまったが，担任の先生から 20 分時間をいただき，顔を描くこととなった。
(8)電子黒板に見本を描き，子どもたちにはそれを真似て顔を描いてもらった。
(9)完成したものを手にもってもらい，見せ合うことで鑑賞の代わりとした。

### 3.5　考察

本授業の成果は3点挙げられる。1点目は，子どもたちが積極的に折り紙に取り組み，出来上がった作品を見て達成感を感じていたことである。2点目は，折り方を理解した子どもがわからず困っている近くの子どもに教える場面がみられたことである。指示して教え合いを促すこともあったが，自発的な教え合いも見られた。3点目は，アメリカの教師ほどはできなかったが，子どもたちの言動に「good!」のように反応ができたことである。

課題は2点挙げられる。1点目は，折ることに時間がかかってしまったことである。自己紹介などを簡潔に済ませ活動のために30分用意できたのだが，実際には折り紙を折るだけで終わってしまった。2点目は，1点目に大きく関わってくるのだが準備が十分ではなかったことである。子どもたちが躓くと予想される手順に対して，手立てや詳しい説明が用意できていなかった。また，言葉，手本だけでなく，アニメーションなどの視覚的に説明する方法を用意しておけば，授業時間も越えることはなかったように思う。



## 4　体験型教育実地研究における自己変容

### 4.1　教育観の変容

アメリカで何度も授業を見学させていただいた。そこで，明らかに日本と違うと感じたのは授業規律である。私は小学校の教員免許を取得するため，附属小学校で実習を行った経験がある。そこでよく言われたのは，一般的な小学校より落ち着いている子どもが多いということであった。しかし，アメリカで見学した学校では指名されるまで発言しない，静かに本を読むといった姿が見られ，授業規律がしっかり徹底されており，附属学校より落ち着きがあったように思う。アメリカは自由の国と言われるだけあり，授業も自由な発言が認められているのかと勝手に思っていたが，実際に見学してみるとそうとは言い切れなかった。日本の教室には日本の教室の良さがあるだろうが，アメリカの授業規律には見習うべき点があると感じた。

### 4.2　自分自身についての変容

移動も含め10日間の滞在で自分にとってのターニングポイントとなったのは，ECUで大学院の授業に参加したときである。ECU の大学院生とペアとなり，お互いの国の学校の違いについて紹介する活動を行った。間違った英語でもいいからとにかく伝えようと思い，ひたすら

に違いについて話した。時折，話すことを理解してもらえないことはあったが，違う表現で言い換えたり，ジェスチャーを交えたりすることで伝わることも少なくなかった。「こんな英語でも伝えようと思えば伝わるんだ」と感じた瞬間だった。それ以降，現地の人とコミュニケーションを取ろうという積極性が生まれた。わからないことは聞き返す，疑問に思ったことは尋ねてみるというような行動ができたのは，自分にとってとても大きな変容であったと思う。

### 4.3　グローバルマインドに関する変容

先に述べたようにこの海外体験型教育実地研究によって，コミュニケーションを取ろうという積極性が生まれた。そのように変わることができたのは，自分自身の気の持ちようだけではなく，私が出会ったアメリカ人が温かかったからだと思う。私が話す英語は間違った表現だっただろうし，時には何を言っているかも理解できない程であっただろう。しかし，大半のアメリカ人は温かい反応を示してくれた。一言一言に「good！」や「great!」といった相槌をしてくれたり，目を見て話を聞いてくれた。そのような態度があったからこそ，積極的に話しかけられたのだと思う。音楽を聴いたり，映画を見たりしてもわからないような，アメリカ人の一面に触れることができたと思う。

また，今回，現地の学校を見学できるという貴重な経験ができた。日本では考えられないことがアメリカの学校では当たり前だったりする。日本の教育ばかり見ているとどうしても視野が狭くなってしまうだろう。今あるものだけでなんとかすることは大切だと思うが，日本にはないものを求め，海外に目を向けるということも重要ではないかと感じた。

## 5 おわりに

参加の動機は貴重な体験ができそうだからということであった。すべてのプログラムを終え，思い返してみると数多くの貴重な体験ができたと心から思う。英語で授業をしたり，ECU の大学院生とお互いの国の学校の違いについて紹介したりした。また，学校のカフェテリアで子どもたちと食事をしたり，学校の先生に新しく取り入れられつつあるスタンダードについて意見を尋ねたりできた。これらすべてのことは体験型海外教育実地研究に参加していなかったらできなかったことだろう。本当にすばらしい体験だったと思う。このように今回の研修が有意義なものとなったのは，小原先生をはじめとする GPSC の諸先生方，現地でサポートしていただいた様々な先生方のお力添えいただいたおかげである。心から感謝申し上げます。